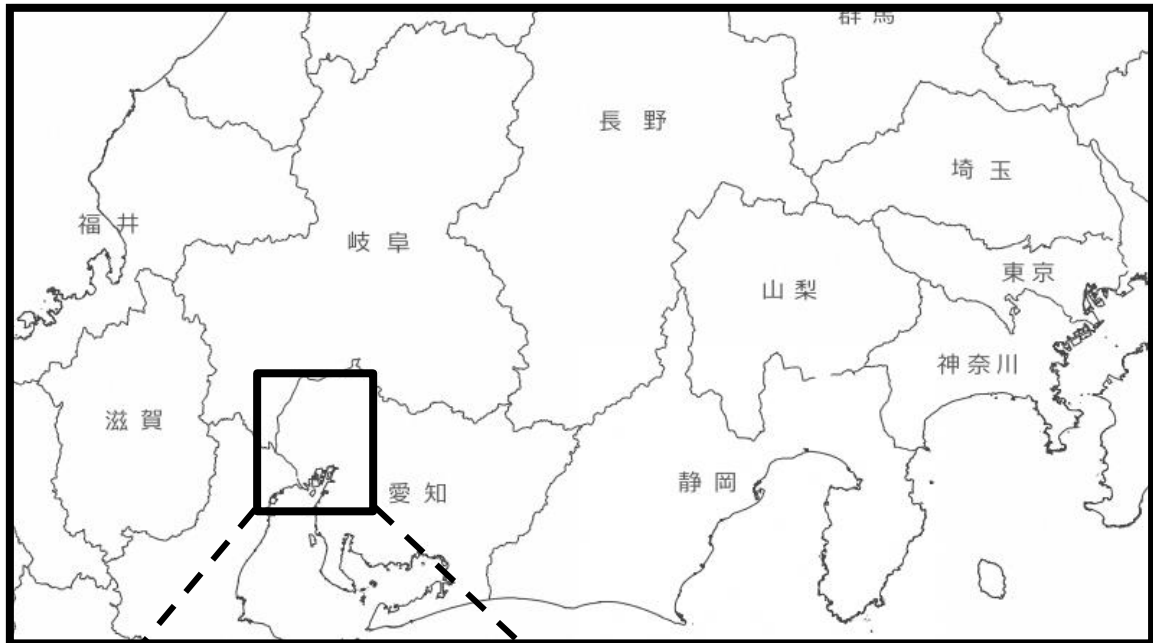


① 申請者	名古屋市	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E								
③ タイトル											
(ふりがな)	えどじだいのじょうちよにふれるしぼりのさんち ~あいぞめがかぜにゆれるまち ありまつ~										
江戸時代の情緒に触れる絞りの産地 ~藍染が風にゆれる町 有松~											
④ ストーリーの概要 (200字程度)											
<p>どこまでも広がる藍色の空の下、藍で染められた絞り暖簾が風にゆれる古い商家の落ち着いた佇まい。絞りの町「有松」には、江戸時代の浮世絵さながらの景観が今も静かに広がっています。</p> <p>「ほしいもの 有松染めよ 人の身の あぶら絞りし 金にかえても」</p> <p>この歌を詠んだ『東海道中膝栗毛』の主人公の弥次さんは、絞りの素晴らしさに魅せられて手拭いを買いました。旅のお土産として、世界に知られている有松の絞りはいかがですか。</p> <p>四百年の歴史を持つ有松の江戸文化は、今も多くの人々を魅了しています。</p>											
<table border="0"><tr><td data-bbox="268 860 786 1458"></td><td data-bbox="912 860 1307 1133"></td></tr><tr><td data-bbox="411 1473 655 1503">絞り浴衣本藍染鎧段</td><td data-bbox="959 1155 1257 1184">有松の町並みと絞り暖簾</td></tr><tr><td colspan="2" data-bbox="912 1205 1307 1458"></td></tr><tr><td colspan="2" data-bbox="959 1473 1281 1503">からくり人形を載せた山車</td></tr></table>						絞り浴衣本藍染鎧段	有松の町並みと絞り暖簾			からくり人形を載せた山車	
絞り浴衣本藍染鎧段	有松の町並みと絞り暖簾										
からくり人形を載せた山車											

市町村の位置図（地図等）

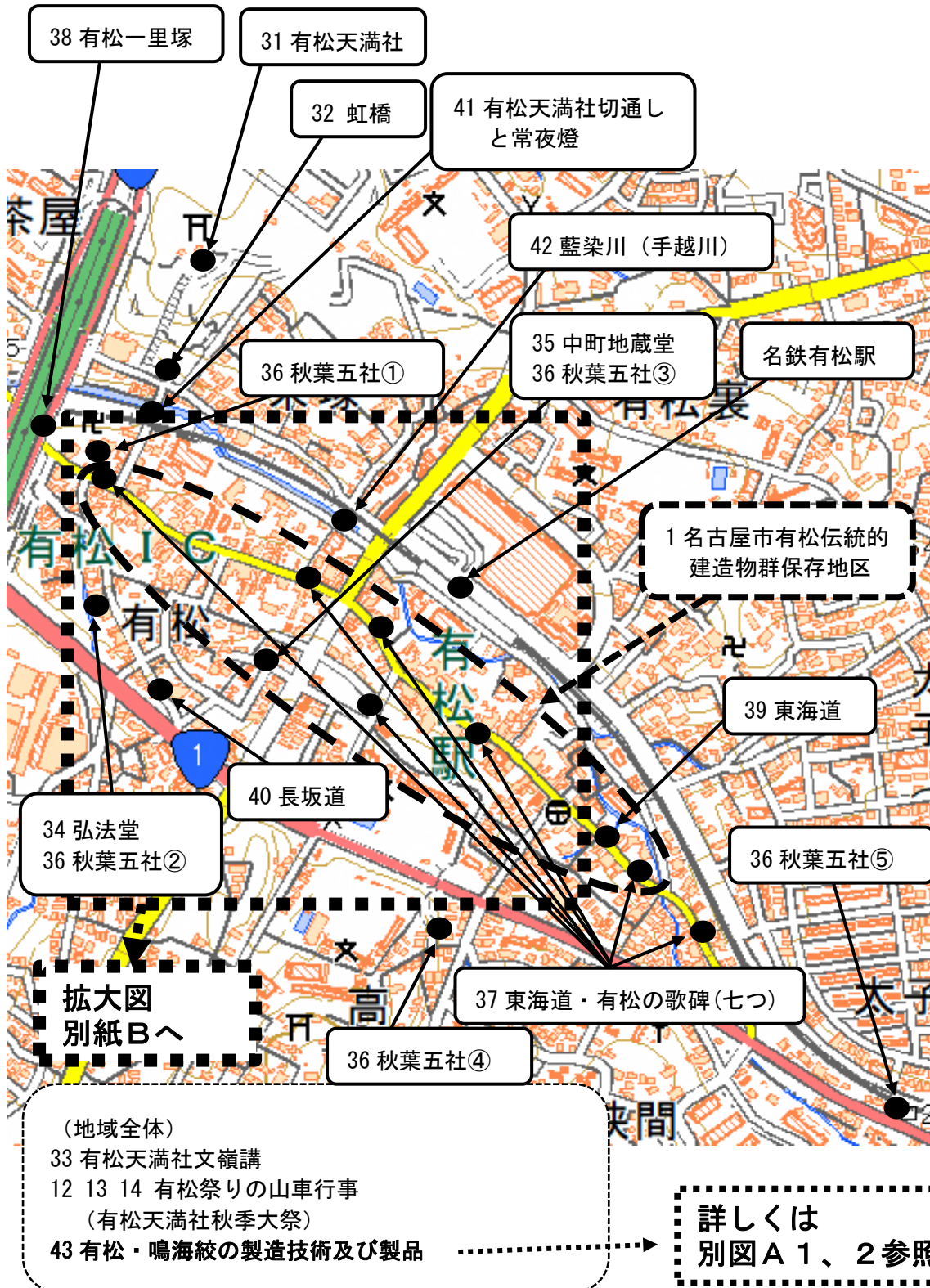


有松地区  
構成文化財の位置図へ

※国土地理院地図データをもとに作成（以下頁の地図全て同じ）

構成文化財の位置図 (地図等)

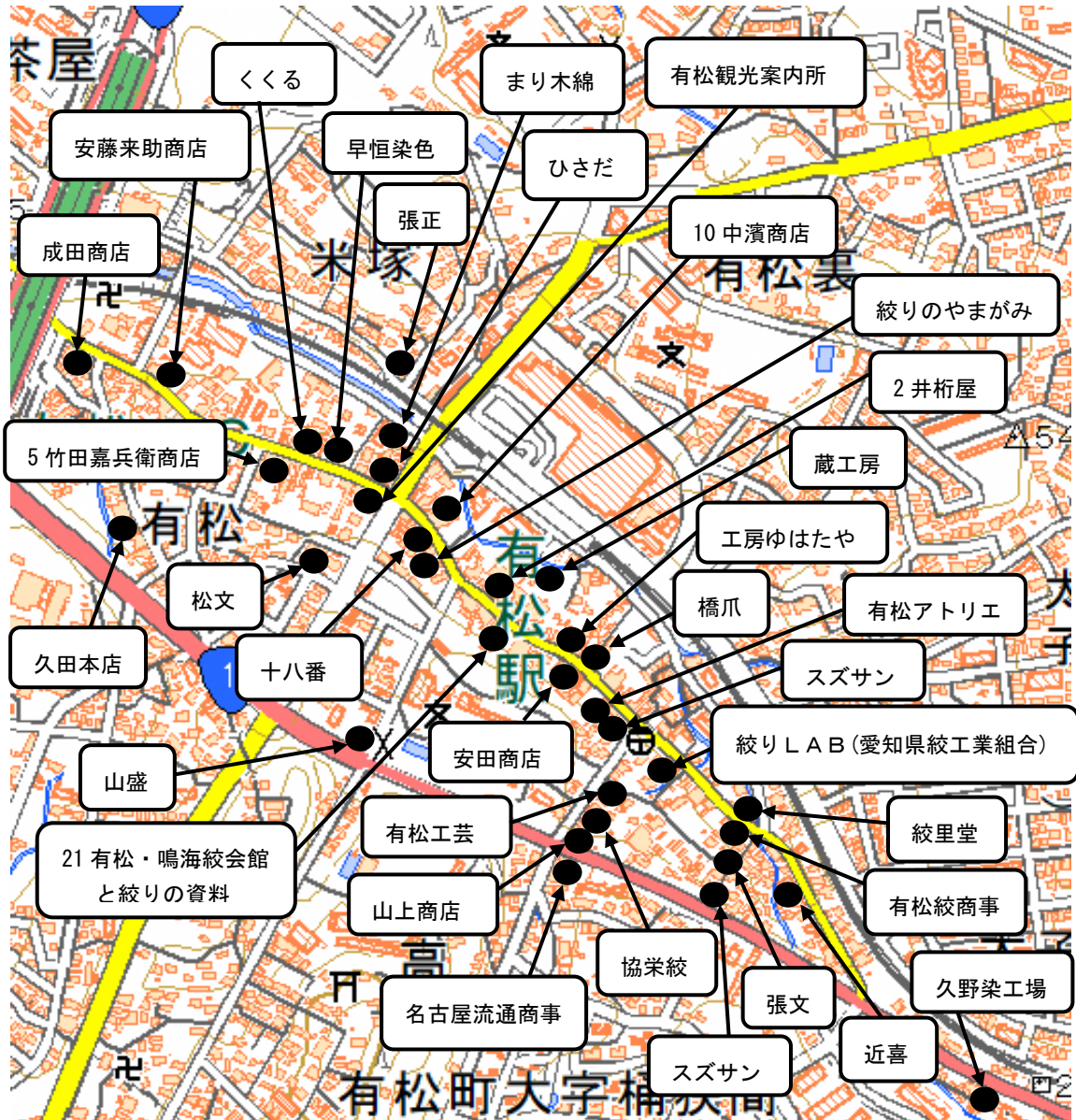
有松地区構成文化財の位置図





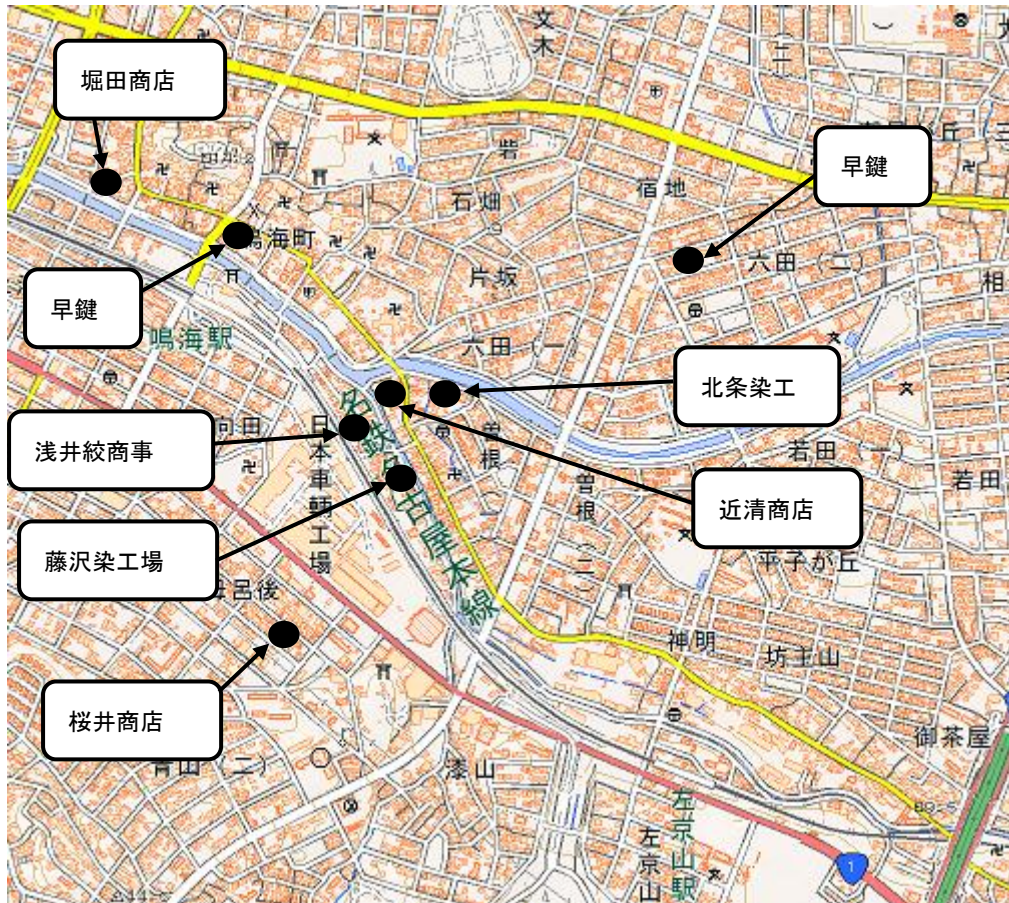
構成文化財の位置図（地図等）別図 A 1

43 有松・鳴海絞の製造技術及び製品（有松地区）



構成文化財の位置図（地図等）別図 A 2

43 有松・鳴海絞の製造技術及び製品（鳴海地区）





構成文化財の位置図 (地図等) 拡大図別紙B (伝建地区)



## ストーリー

## ◆絞りの町「有松」へようこそ

名鉄名古屋駅から名鉄名古屋本線の電車で揺られて20分。有松駅の改札口を出ると、大きな案内看板が目飛び込んで来ます。看板の矢印に従って歩くとすぐに無電柱化された東海道沿いの古い町並みに出会います。それが絞りの町「有松」です。どこまでも広がる藍色の空の下、藍で染められた絞り暖簾が風にゆれる古き商家の落ち着いた佇まい。江戸時代さながらの景観が今も静かに広がっています。



有松の町並み

## ◆弥次さん喜多さんも楽しんだ有松での買い物

今から二百年ほど前に十返舎一九が書いた『東海道中膝栗毛』をご存じでしょうか。この本の主人公の弥次さん喜多さんは、お伊勢参りの徒歩旅行の途中に東海道を東から有松の町に入りましたが、電車で訪れる現代の観光客は有松駅から南へ歩いて入ります。有松で、弥次さんはお土産として東海道名物の絞りの手拭いを購入しました。二百年後の今も同じようにお土産を買う事が出来ます。

「絞り」は古代から伝わる染めの技法。布を縛って皺を寄せ、生地を縮め固定した後に染色を行い、縛り糸を抜き取って完成です。いかに白地を残すかが大事だと言われています。工程は大きく分けて図案選定、型紙取り、下絵刷り、絞り加工（括り）、染色、糸抜き、仕上げの7つからなり、それぞれ分業で営まれ、有松周辺の多くの人携わっていました。

『有松・鳴海絞』が国の伝統的工芸品に指定されている有松・鳴海地域は、世界一絞り技法の多い絞り染めの産地として知られており、江戸時代には尾張藩の庇護のもと、将軍献上の高級品として珍重され、地域の繁栄を支えてきました。その後、明治維新により絞産業は一時衰退しましたが、様々な努力により復興し、明治時代から大正時代にかけて最盛期を迎えました。絞商の援助により鉄道の延伸と有松駅の設置、学校の開設が実現し、この地域は大いに発展しました。現在の有松は名古屋の重要な歴史観光資源となっています。

東海道から有松の町をぐるりと見回せば、伝統的なものから近代的なものまで様々な「絞り」に出会うことでしょう。着物、浴衣はもちろん、洋装品、アクセサリ、装飾品などの開発にも有松・鳴海地域は力を注いでおり、様々なお店で販売されています。丸めると手のひらにすっぽり収まる絞りの洋服も評判です。ぜひ、その眼でお確かめ下さい。

## ◆有松・鳴海地域でしか出来ない絞り体験に挑戦しよう

東海道を東に進んで行くと、有松・鳴海絞会館が右手に見えて来ます。ここは有松・鳴海絞の資料展示と販売も行っており、絞りについて詳しく学べます。伝統工芸士による絞りの実演も見学出来ます。有松・鳴海地域の各所にある絞り工房では、ハンカチやスカーフなどの絞り体験も気軽に体験出来ます。弥次さん喜多さんが経験することが出来なかった絞り体験です。ぜひとも挑戦し「世界に一つだけの絞り」を素敵なお土産にして下さい。



絞りの糸抜き工程



有松・鳴海絞の商品



伝統工芸士の実演

## ◆有松の町並みを散策してみよう

絞り体験を満喫した後は、東海道約800mに沿って建ち並ぶ有松の町並み散策はいかがでしょう。この古い町並みは国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている価値の高いものです。町



並みに溶け込むように置かれた歌碑等とともに、その佇まいは見る者を魅了することでしょう。

何よりも素晴らしいのは、江戸時代の浮世絵にも描かれ、弥次さん喜多さんも眺めたその町並みが、そっくりそのまま残されていることです。



左側が歌川広重作『東海道五拾三次之内 鳴海 名物有松絞』、右側が現在の有松の町並みです。とても雰囲気似ていると思いませんか。この町並みは天明4（1784）年のほぼ全戸焼失した有松の大火からの復興によって形作られたものです。この時期に防火を考慮した総瓦葺・塗籠造の商家が建ち並ぶようになりました。有松の絞商を営む商家は他の地区と比べ間口が広く、太陽の日差しから藍染めの商品を守るために軒が低くなっているのが大きな特徴と言えます。大規模な建物には明かり取りの天窓もあります。実際に見て確認して下さい。

#### ◆有松の伝統文化を満喫してみよう

今の有松には、弥次さん喜多さんの時代にはなかった魅力がたくさんあります。町中に精緻な技法の絞りが乱舞する6月の絞りまつり。笛や太鼓の音に乗って、山車3輦のからくり人形が躍る有松天満社の秋季大祭。ともに多くの観光客がやってくる人気の催しです。秋季大祭の夜祭りでは山車の提灯に灯がともり、とても幻想的です。



絞りまつり

3輦の山車は、いずれも名古屋周辺の山車の特徴であるからくり人形を載せた山車で、絞産業で潤った町の繁栄の象徴として祭礼に登場するようになったものです。そのうちの1輦は有松山車会館に展示されています。有松の隆盛が偲ばれる素晴らしい山車です。ぜひご覧下さい。



夜の山車まつり

町並み散策に疲れたら、商家を改装したカフェやレストランでゆったり時間を過ごす事も出来ます。宿泊をご希望でしたら商家改装のゲストハウスもあります。小さな驚きと新鮮な感動に会う、そんな町が有松です。訪れた人々をおもてなしの心で歓迎してくれます。心ゆくまで有松を満喫して下さい。

#### ◆現代に息づく有松・鳴海地域の絞り文化

有松・鳴海地域が四百年間、不断の努力で技術開発を続けたことで、世界中で愛される「絞り」となりました。絞りは今では百種類を超える技法の素晴らしさで「Shibori=Shaped resist dyeing（立体的に防染された染物）」と定義され世界共通語となりました。世界20カ国の関係者を集めた国際絞り会議の開催、ワールド絞りネットワークの設立など、有松・鳴海絞の魅力を全世界に発信しています。また、有松は歴史的な町並みの保全に努力し、絞り産業、古い町並み、山車祭りといった歴史文化を活かし、繰り返し訪れてみたくなる魅力あるまちづくりに取り組んでいます。



国際絞り会議の展示作

弥次さん喜多さんが今の有松の様々な取り組みを見たら、きっと驚くことでしょう。



ストーリーの構成文化財予定一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
1	なごやしありまつでんとうき 名古屋市有松伝統的 けんぞうぶつぐんほぞんちく 建造物群保存地区	国重伝建	全国で唯一『染織町』として国の重伝建に選定された有松の町並み。ゆるやかに曲がる東海道に沿った有松の町は絞りとともに発展してきました。ストーリーで語られたように江戸時代の浮世絵さながらの風景を今も維持しており、絞商特有の広い間口を持つ主屋建物が数多く残されています。ストーリーのイメージを実体験するための重要な構成要素であり、下記の各文化財をエリアの中に含んでいます。	
2	はっとりけいじゅうたく 服部家住宅 (井桁屋)	県有形 (建造物)	服部孫兵衛家(井桁屋)は寛政2年(1790)に創業した絞商。敷地間口は有松で最大。有力な絞商の屋敷構えを今もよく残しています。ストーリーで語られる天窓もあります。主屋は文久元年(1861)建造。	
3	はっとりこうへいけいじゅうたくら 服部幸平家住宅倉	県有形 (建造物)	服部幸平家は、服部孫兵衛家(井桁屋)の分家にあたり、服部孫兵衛家の東隣を占めます。倉は、服部孫兵衛家の屋敷の一部を構成していましたが、分家に際し、元の位置のまま、服部幸平家に譲られたものです。	
4	はっとりよしやけいじゅうたく 服部良也家住宅	未指定 (建造物)	明治期に創業した絞商の屋敷の大部分が当時のまま残っています。主屋は明治28年(1895)建造。	
5	たけだけいじゅうたく 竹田家住宅 (竹田嘉兵衛商店)	市有形 (建造物)	竹田家は絞開祖竹田庄九郎家の一族で、寛保年間(1741~1744)に絞業を営んでいた竹田嘉七郎に始まると伝えられています。第14代将軍徳川家茂も訪れたとされる竹田庄九郎旧宅や茶室、明治から大正にかけて整備された建物が現存しています。主屋は江戸末期建造。	
6	たけだけちやしつ 竹田家茶室 さいしやうあん 栽松庵	市有形 (建造物)	幕末の動乱期に東海道を西上した第14代将軍徳川家茂も訪れたという竹田庄九郎旧宅の茶室です。	

7	こづかけじゅうたく 小塚家住宅	市有形 (建造物)	小塚家が有松に居を構えたのは、寛文年間(1661~1673)とされています。卯建をあげる主屋が特徴的で、絞商の屋敷構えが一式で残っています。主屋は文久2年(1862)建造。	
8	おかかけじゅうたく 岡家住宅	市有形 (建造物)	主屋の間口は、有松の伝統的建造物の中では最大。江戸末期の絞商の特徴を今も残しています。江戸末期頃建造と推定されています。ストーリーで語られる天窓もあります。	
9	としけいかんぼんじゅ 都市景観保存樹 クロガネモチ	未指定 (天然記念物) ※市都市景観 保存樹	上記2の服部家住宅に立派なクロガネモチがそびえています。有松地区最古の樹木で名古屋市都市景観保存樹に指定されています。東海道開通の頃から有松の歴史を見守ってきた大木です。ストーリーで語られた全村焼失の天明の大火にも耐えました。現在の建物が建てられる前からあり、この木を残すように家が建てられています。	
10	なかはまけじゅうたく 中濱家住宅 なかはましょうてん (中濱商店)	国登録有形	当初は、絞商の山田与吉郎家の建物でしたが、平成16年(2004)からは中濱家(中濱商店)の建物として使われています。主屋は明治中期頃建造。	
11	たなはしけじゅうたく 棚橋家住宅	国登録有形	有松を代表する絞商(大井桁屋)の建物として建てられ、昭和8年(1933)からは棚橋医院として約50年間使われていました。ストーリーで語られる天窓もあります。主屋は明治8年(1875)建造。	

1 2	有松祭りの山車行事 (有松天満社秋季大祭)	じんぐうこうごうしや 神功皇后車  にしまちだしこ (西町山車庫)	市無形民俗	<p>有松の3輛の山車は昭和48年2月1日に市の有形民俗文化財に指定されましたが、その後、平成26年3月31日に山車行事を含んだ無形民俗文化財に切り替えられました。絞産業の繁栄の中で豪華になっていった有松の祭礼を象徴する山車です。</p> <p>山車行事である有松天満社秋季大祭は江戸時代から続くまつりで、かつては絞産業の閑散期である旧暦8月14、15日に行われていました。戦時中は山車の曳行が取りやめられ、その後も隔年で曳行されたりしていましたが、平成になってからは、毎年10月の第1日曜日に曳行されています。</p> <p>まつりでは、西町の神功皇后車、中町の唐子車、東町の布袋車の3輛の山車からくりが披露されます。文字書きのからくり人形が同一地区の二つの山車に乗せられているのは有松だけの特徴で、そのうちの一つは名古屋最古のものです。また、残る一つの山車の鮎釣り人形も舌を伸ばすなど個性的な動きをします。いずれのからくりも、古い歴史を持ち何度も修理されながら、保存されています。</p> <p>このまつりには各町内の山車の囃子方、楫方がそれぞれ有松絞りの半纏をまとい参加します。趣向を凝らしたそれぞれの祭装束も楽しみのひとつです。</p> <p>絞産業の隆盛により花開いたまつり文化はストーリーを構成する重要な要素です。</p>	
1 3		からこしや 唐子車  なかもらだしこ (中町山車庫)			
1 4		ほていしや 布袋車  ひがしまちだしこ (東町山車庫)			
1 5	ありまつだしかいかん 有松山車会館	未指定 (無形民俗)	<p>名古屋市の文化財である有松祭りの山車3輛を毎年入替で展示し、曳行の様子をビデオ(英語対応)で紹介するなど、ストーリーで語られているまつり文化を紹介しています。</p>		
1 6	やまだけじゅうたく 山田家住宅  きゅうやまだやのきょく (旧山田薬局)	未指定 (建造物)	<p>寛政3年(1791)の棟札が残る山田家住宅(旧山田薬局)を改装して、観光案内所として活用中。</p> <p>ストーリーの舞台となる有松を散策される際には、ぜひご活用下さい。</p>		



17	こんとうけじゅうたく 近藤家住宅	未指定 (建造物)	昭和初期の建造である近藤家住宅を改装して、ゲストハウスとして活用中。宿泊者に占める外国人の比率は6割です。 ストーリーの舞台となる有松を散策される際には、下記の飲食店ともども、ぜひご活用下さい。
18	きゅうたけだしょうくろうけじゅうたく 旧竹田庄九郎家住宅	未指定 (建造物)	弘化3年(1846)の床板が残る旧竹田庄九郎家を改装して、カフェとして活用中。
19	かみやけじゅうたく かみほん 神谷家住宅 (神半)	未指定 (建造物)	昭和初期の建造である神谷家住宅と土蔵を飲食店「やまと」「ダーシェンカ蔵」として活用中。
20	はっとりけじゅうたく (いげじゅう) 服部家住宅 (いげ十)	未指定 (建造物)	明治初期の建造である服部家住宅(いげ十)を飲食店として活用中。寿限無茶屋の敷地内には蔵も残っています。蔵の大きさとしては有松に残る最大のものと言われています。
21	ありまつ なるみしほりかいかん 有松・鳴海絞会館 しほり しりょう と絞りの資料	未指定 (工芸技術) ※国指定伝統的工芸品	ストーリーで語られる有松の伝統産業である「絞り」を紹介するために、有松の町並みの中に昭和59年(1984)に竣工。貴重な絞りの資料展示や絞りの歴史・文化をビデオ(英語対応)で紹介し、絞り技術者による絞り実演も行っています。12月～3月の毎週水曜日は休館。
22	ぎおんじ ぶつそくせき 祇園寺、仏足石、 こうみょうこうごうきょうぶつせき か ひ 光明皇后恭仏跡歌碑、 さんじゅうさんかんのん じゅうろくらかんぞう 三十三観音、十六羅漢像	未指定 (建造物・彫刻・史跡)	祇園寺は有松の西端に位置しており、ストーリーで語られた有松の歴史を見守り続けてきたお寺です。有松の人々の菩提寺です。 宗派は曹洞宗。宝暦5年(1755)に、鳴海の円道寺より移設建立されました。尾張名所図会に描かれた状況を、今日もよく維持しており、仏足石、光明皇后恭仏跡歌碑、三十三観音、創建当時からの十六羅漢像などが現存しています。

23	にしまちねんぎょうじ 西町年行司	未指定 (建造物)	明治以降の建造で、ストーリーで語られる有松天満社の秋季大祭の際に西町の山車で使用されるからくり人形の組み立てが行われます。祇園寺の境内地と一体となって東海道沿いの景観に寄与しています。
24	えんめいじぞうぞん 延命地藏尊	未指定 (彫刻)	有松郵便局の東に小さなお堂があり、石造りのお地藏様がまつられています。江戸時代より有松の人々に守られてきたお地藏様です。以前は別の場所にありましたが、平成10年(1998)に現在地に移されました。
25	ただししょうくろうひ 竹田庄九郎碑 すずききんぞうひ 鈴木金蔵碑	未指定 (史跡) ※国重伝建 (工作物)	有松・鳴海絞会館の奥に有松絞り開祖竹田庄九郎碑と中興の祖鈴木金蔵碑が建碑されています。 二人とも、ストーリーで語られる絞りの技術開発の上で欠かす事が出来ない重要人物で、その石碑の前で毎年慰霊祭が行われています。
26	ありまつしょうがっこうかざもん 有松小学校飾り門	未指定 (建造物)	昭和2年(1927)に建てられた旧木造校舎(有松尋常高等小学校)に設けられた門で、グラウンドのすみに保存されています。 有松尋常高等小学校の高等科は明治27年(1894)に設置されましたが、その設置運営には当時の有松の絞組合から多額の寄付が行われました。 ストーリーで語られる絞産業の繁栄ぶりが偲ばれる飾り門です。
27	かつかいしゅう かけじく 勝海舟の掛軸	未指定 (書跡)	竹田家主屋の茶室の床の間に、勝海舟の条幅の掛軸が掛けられています。竹田家には、山岡鉄舟の掛軸もあります。ストーリーで語られた有松の繁栄を背景に、竹田嘉兵衛(5代)と勝海舟たちとは何らかの接点があったと考えられます。

28	<p>かくち ほんらんかい 各地の博覧会の</p> <p>じゆしやうひやうしやうじやう 受賞表彰状</p>	未指定 (歴史資料)	<p>明治時代、日本の工芸・美術品は欧米で大変人気がありました。有松の絞商は、積極的に国外への販路拡大を行い、各地の博覧会にも有松絞りを出品しました。</p> <p>下記の各博覧会で受賞を果たし、服部家住宅や絞会館には、受賞の表彰状が飾ってあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1900年パリ万国博覧会銅賞</li> <li>・1910年ロンドン日英博覧会銀賞</li> <li>・1915年パナマ太平洋国際博覧会金賞</li> </ul> <p>ストーリーで語られる絞産業の繁栄ぶりが偲ばれる受賞表彰状です。</p>	
29	<p>らいさんやうじひつ 頼山陽自筆の</p> <p>かんし おうぎ 漢詩の扇</p>	未指定 (書跡)	<p>江戸時代後期の儒者・詩人の頼山陽が知人であった井桁屋に宿泊した際に残した頼山陽自筆の扇が服部家住宅に保存されています。</p> <p>有松の当時の繁栄の様子が漢詩で表現されています。</p> <p>この扇を模した石碑が有松・鳴海絞会館の入口に設置してあります。この石碑は下記37の東海道・有松の歌碑の一つでもあります。</p>	
30	<p>はっとりけ 服部家の</p> <p>よめい かご 嫁入り駕籠</p>	未指定 (工芸)	<p>服部孫兵衛家(井桁屋)三代・四代の結婚式の際に、花嫁が実家から嫁いで来た時の嫁入り駕籠がお店に入った正面の天井に飾ってあります。</p> <p>約180年～200年前のもので、有松の人々の生活を現代に伝える貴重な工芸品です。</p>	
31	<p>ありまつてんまんしゃ 有松天満社</p>	未指定 (建造物)	<p>有松天満社は有松の氏神さま。</p> <p>上記12～14の山車行事が奉納されている神社でもあります。</p> <p>菅原道真公を主祭神として七神が祀られています。もともとは祇園寺境内にあり、寛政時代(1789～1800)の初めに現在の場所に移されました。</p> <p>その後文政7年(1824)に改築されましたが、これも有松の人々から莫大な資材・基金の寄付を受け、八棟造りの豪華な社です。</p>	
32	<p>にじばし 虹橋</p>	未指定 (建造物)	<p>有松天満社の境内に参道と並行に設置されている小径に掛かる石橋</p> <p>もともとは神社参道の切通しにかかっていた橋で、尾張名所図会にも描かれている江戸時代の貴重な遺構です。</p>	



3 3	ありまつてんまんしゃぶんれいこう 有松天満社文嶺講	未指定 (無形民俗)	文嶺講は戦前から存在していましたが、昭和 21 年 (1946) 旧有松天満社氏子組織が文嶺講として公的に成立しました。昭和 39 年 (1964) 宗教法人となるとともに、上記 1 2 ~ 1 4 の有松の山車まつりや山車の管理も各町内から文嶺講に移管され、現在に引き継がれています。
3 4	こうぼうどう 弘法堂	未指定 (建造物)	長坂道沿いにある弘法大師をまつるお堂。 ストーリーで語られる有松の江戸情緒を現代に伝える貴重なお堂です。
3 5	なかもちじぞうどう 中町地藏堂	未指定 (建造物)	天王坂といわれる道沿いにあったものを道路拡張の時に現在地に移転したもので、汗かき地藏さんと呼ばれています。 ストーリーで語られる有松の江戸情緒を現代に伝える貴重なお堂です。
3 6	あきばごしや 秋葉五社	未指定 (建造物)	ストーリーで語られた天明 4 年 (1784) の有松大火に見舞われた有松には、篤い火伏せの信仰が根付いており、現在でも町内に秋葉社が 5 社祀られています。
3 7	とうかいどう ありまつ か ひ 東海道・有松の歌碑	未指定 (史跡)	ストーリーで語られたように『東海道中膝栗毛』や浮世絵の題材になった有松ですが、その他にも東海道・有松をテーマとした様々な歌が詠まれています。 それを語り継ぐため、東海道沿いに有松にちなんだ歌碑が七つ設置されています。
3 8	ありまついちりづか 有松一里塚	未指定 (史跡)	ストーリーの舞台である有松とは切っても切れない関係である東海道。その東海道の一里塚が大正時代までは残されていました。今の塚は、地元の強い要望により、平成 24 年 (2012) に再現されたものです。

39	とうかいどう 東海道	未指定 (史跡)	東海道は、有松の歴史の原点です。平成 25 年 (2013)、無電柱化が行われ、かつての風情を取り戻しました。ストーリーに語られたように、東海道と有松の町並みは様々な浮世絵に描かれてきました。また、幕末の英国外交官のアーネスト・サトウは東海道を旅しましたが、その日記の中で有松の印象を、日本で見た中でもっとも清潔で豊かな感じのする町だと書いています。	
40	ながさかみち 長坂道	未指定 (史跡)	祇園寺門前から国道 1 号線に通じる小路で、東海道よりも歴史の古い道です。かつては、東海道に面した絞商の屋敷の裏道でもあり、道脇には紺屋などが点在していました。	
41	ありまつてんましやきりどおし 有松天満社切通し と常夜燈 じょうやとう	未指定 (史跡・建造物)	祇園寺東から北へ入り、上記 31 の有松天満社の鳥居まで約 150m の参道です。切通し入り口には天保 13 年 (1842) 建立の常夜燈一対が今も立っています。途中にかかっていた石橋が上記 32 の虹橋で、今も有松天満社の境内に残されています。	
42	あいぞめがわ てごしがわ 藍染川 (手越川)	未指定 (名勝)	この川は、かつては郡境となっていました。上流の染工場から流れる染料の藍で染まり、「藍染川」と親しまれた手越川。有松の江戸情緒を象徴する風景でした。現在では上下水道の設備が整い、昔のような藍色の水が流れる情景は無くなりました。	
43	ありまつ なるみしぼり 有松・鳴海絞の せいぞうぎじゅつおよ せいひん 製造技術及び製品	未指定 (工芸技術) ※国指定伝統的工芸品	昭和 50 年 (1975) 通産省 (当時) 伝統的工芸品指定である有松・鳴海絞。「縫う」「くくる」「たたむ」ことにより形作られる布地の立体的な凹凸が有松・鳴海絞の神髄。絞りは皺 (しわ) の芸術であり、美学でもあります。ストーリーで語られたように、有松・鳴海地域では今も各種絞り製品が作られ、至るところで小売りが行われています。絞り工房においては、実際に絞りを体験することも出来ます。	

- (※1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。
- (※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること(例:国史跡、国重文(工芸品)、県史跡、県有形、市無形等)。なお、**未指定であっても文化財保護の体系に基づいた分類を記載**すること。
- (※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること(単に文化財の説明にならないように注意すること)。
- (※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること(複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること)。



## 構成文化財予定の写真一覧

### 1 名古屋市有松伝統的建造物群保存地区



### 2 服部家住宅（井桁屋）



### 3 服部幸平家住宅倉 4 服部良也家住宅



### 5 竹田家住宅（竹田嘉兵衛商店）



### 6 竹田家茶室 栽松庵



7 小塚家住宅



8 岡家住宅



9 都市景観保存樹クロガネモチ



10 中濱家住宅 (中濱商店)



11 棚橋家住宅



12 神功皇后車 (西町山車庫)





1 3 唐子車 (中町山車庫)



1 4 布袋車 (東町山車庫)



1 2 1 3 1 4 有松祭りの山車行事  
(有松天満社秋季大祭)



1 5 有松山車会館



1 6 山田家住宅 (旧山田薬局)



1 7 近藤家住宅





18 旧竹田庄九郎家住宅



19 神谷家住宅 (神半)



20 服部家住宅 (いげ十)



21 有松・鳴海絞会館と絞りの資料



22 祇園寺、仏足石、光明皇后恭仏歌碑、  
三十三観音、十六羅漢像



23 西町年行司



24 延命地藏尊



25 竹田庄九郎碑 鈴木金蔵碑

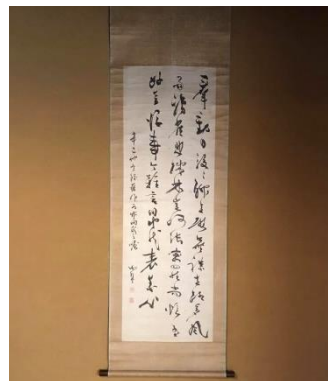




26 有松小学校飾り門



27 勝海舟の掛軸



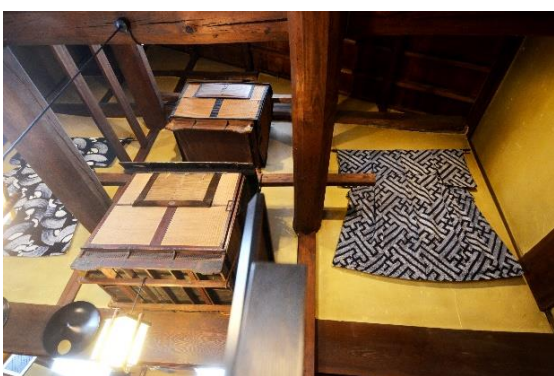
28 各地の博覧会の受賞表彰状



29 頼山陽自筆の漢詩の扇



30 服部家の嫁入り駕籠



31 有松天満社



32 虹橋



33 有松天満社文嶺講





34 弘法堂



35 中町地藏堂



36 秋葉五社



37 東海道・有松の歌碑



38 有松一里塚



39 東海道



4 0 長坂道



4 1 有松天満社切通しと常夜燈



4 2 藍染川 (手越川)



4 3 有松・鳴海絞の製造技術及び製品①



4 3 有松・鳴海絞の製造技術及び製品②





## 日本遺産を通じた地域活性化計画

## (1) 将来像 (ビジョン)

## ◎地域の未来の姿

有松は、江戸時代から続く「絞り産業」「東海道沿いの古い町並み」「山車とからくり」の三つの貴重な文化資源を活用し、今まで精力的にまちづくりを行ってきた。

昭和48年の有松まちづくりの会の発足に始まり、昭和53年の第1回全国町並みゼミを当時の愛知県足助町と共同開催するなど、有松は行政に頼らない住民主体のまちづくり活動を全国に先駆けて進めてきた。近年、東海道の無電柱化事業、重要伝統的建造物群保存地区（重伝建）選定を達成し、有松地区のハード面でのまちづくりについては一定の方向性を定める事が出来た。

21世紀の現在、外国人観光客の増大、リニア中央新幹線の建設進行など、名古屋及び有松を取り巻く環境は大きく変わろうとしている。この大きな潮流の中、有松は日本遺産認定を契機として、三つの貴重な資源をさらに活用し、ソフト面においても、おもてなしの心を持って未来へのまちづくりを推進する。

日本遺産を通じた地域活性化計画に基づき、有松は次のような考え方のもと、住む人が誇りを持てるまちづくりを目指す。

- ① 有松のオンリーワンである「絞り産業」を国際交流、後継者育成、観光PRの推進等を通してより活性化することで、世界を代表する絞りの産地である有松の魅力を高め、「藍で染め上げられた絞りの町」として独特の雰囲気を持つ有松の更なるイメージアップを図る。
- ② かつて「東海道中で一番美しいまち」と言われ、江戸時代から続く古い町並みが特徴の有松。その魅力を観光客に伝えるため、建物の修理修景等の町並み保存事業を進める。同時に空き家の活用を図り、観光客を誘引する仕掛けを工夫することで、地元住民も観光客も楽しく交流できるまちづくりを進める。
- ③ 有松の氏神さまである有松天満社の山車祭りを始めとする伝統文化を守り、地域の交流を深め、住民の社会参加を促し、世代を超えた人材づくりを進め地域の活性化に資する。

## ◎地域の長期的構想への取組の考え方

名古屋市は「名古屋魅力向上・発信戦略」に基づき、名古屋城を核とした2つの魅力軸の1つである「歴史・文化魅力軸」に有松を位置付けている。平成28年7月に国から重要伝統的建造物群保存地区（重伝建）に選定された東海道沿いの有松地区を活用した魅力の向上と情報発信を行っている。また、有松地区は「名古屋市歴史文化基本構想」「名古屋市歴史的風致維持向上計画」「名古屋市歴史まちづくり戦略」においても、歴史的資源として位置づけられており、歴史的建造物を積極的に保存・活用し、まちづくりに活かす方針を打ち出している。三大都市唯一の重伝建地区であり、大都市名古屋の街中にいながらにして江戸時代の情緒を手軽に味わう事が出来る有松地区は、名古屋の観光資源として、また文化財の集積地として、非常に重要な役割を担っている。

日本遺産認定を起爆剤として、知名度向上、外国人観光客の誘致、各種ガイダンス施設の整備、絞産業に携わる後継者育成等を進め、有松の魅力をさらに向上させていく。

## (2) 地域活性化のための取組の概要

## ①有松の今後のまちづくりについて話し合う「ゼミ」を地元住民対象に継続開催し、今後の方向性を定め、関係各機関との連携を図る。

- ・有松まちづくり長期ビジョンの検討策定
- ・各種調査（住民意識、マーケティング）の実施
- ・有松に残された各種資料の収集整理公開
- ・有松の町は大学の卒論に取り上げられる事も多いので、大学等各種団体とのコラボを実施
- ・空き家活用等の研究
- ・インバウンド、観光に関する研究

## ②「ゼミ」の話し合いでの合意に従い、国内外の観光客に向け、有松の魅力を情報発信する。有松の地元住民にも、日本遺産認定を契機として、さらに誇りを持てるよう普及啓発を行う。

- ・日本遺産記念シンポジウムの開催
- ・日本遺産認定を周知するためのポスター、チラシ、冊子、ハッピー、提灯、グッズ等の作成
- ・日本遺産有松の紹介動画作成
- ・日本遺産有松のホームページ作成（多言語化、モバイル対応）
- ・日本遺産記念イベント（住民向け学習会、町並み見学会、ツアー等）

## ③ストーリーの核である絞産業の後継者育成事業に積極的に取り組み、有松の絞産業の更なる発展を図る。

- ・絞りを学ぶ人の支援体制づくり
- ・市民、子ども達への絞りをテーマにした地域学習

## ④「ゼミ」の話し合いでの合意に従い、日本遺産ガイダンス施設の新設又は既存施設の改修を進める。これらの整備によって観光客を増やし満足度を向上させる。

- ・日本遺産認定、絞り文化、重伝建の町並み、山車の魅力等を体感できるガイダンス施設の整備
- ・有松に関するさまざまな資料を収集・展示する資料館を整備
- ・既存施設の改修、周辺環境整備（景観向上、駐車場、トイレ等）

## ⑤「ゼミ」の話し合いでの合意に従い、案内板等の設置を進め、観光客の利便性を向上させる。

- ・有松の景観に配慮した案内板の設置

## ⑥従来から実施中の有松活性化事業をさらに発展させる。

- ・商店会歳末セール
- ・有松天満社の元旦祭、左義長、春季大祭、秋季大祭（山車まつり）の開催
- ・絞りまつり、晩秋の有松を楽しむ会、国際絞り会議、ワールド絞りネットワーク、有松ゼミナール等実施
- ・有松・鳴海絞会館、有松山車会館、観光案内所の運営
- ・ガイドボランティア「有松あないびとの会」による町並み案内
- ・有松地区の観光魅力向上事業

## ⑦修理修景等、有松の町並み保存事業を継続的に実施し、文化財としての魅力を向上する。

- ・伝統的建造物群保存地区保存事業、町並み保存事業

(3) 自立的・継続的な取組

有松には多くの民間団体があり、絞産業、まちづくり、観光、祭礼、ガイドボランティア等の各分野において活発な活動を行っている。「有松・鳴海絞会館」の運営や「絞りまつり」の開催などの各種事業の実施ノウハウも、民間団体に蓄積されている。そこが有松の強みである。

今回の日本遺産申請も、地域からの強い要望に基づき、地域と行政が協力して推進している。

そのため、今後、新たな組織を立ち上げるのではなく、現在ある地域の力を最大限活用する予定。地元民間の各協力団体の活動強化を図り、今後の自立的・継続的な取組を進めていく。プロジェクトリーダー、ワーキンググループ、グループリーダーについても、既に活動中の各団体の代表をそのまま当てる予定であり、実効性の高い事業の実施体制の確立が可能である。

1年目～3年目は、(仮称)有松日本遺産推進協議会への補助金を活用し、協力団体11団体の相互連携を強化し事業を推進。予算等の制約で実施出来なかった企画案の実現を、日本遺産認定を契機として目指す。ストーリーの要となる「絞り」については、協力団体の一つである愛知県絞工業組合の主導のもと、絞技術の後継者育成を中核に据えて事業実施予定。3年間の取組みの中から、新しい地域の担い手の育成と世代交代を目指す。

4年目以降も、各団体が3年間の補助事業で得た経験ノウハウをもとに自立し、様式4(別紙③)に記載されている事業を継続実施しつつ、新しい取り組みにも着手する。

(4) 実施体制

・協議会の名称：

(仮称)有松日本遺産推進協議会

・構成団体：

○有松まちづくりの会

(昭和48年に、有松の町屋所有者を中心とした有志によって作られた町並み保存を目的とした住民団体)

○名古屋市 (教育委員会文化財保護室、観光文化交流局観光推進室及び歴史まちづくり推進室 等)

・実施体制：

有松まちづくりの会内に作られた日本遺産事業実施のための実行委員会及び地元協力11団体と協議しながら実施事業を決定。事業推進に当たっては、各分野に精通した地元協力11団体をワーキンググループと見なし、これと連携し協力団体以外の地元住民の参加協力も得ながら、定期的に連絡会議を開き、円滑な運営に努める。

(仮称)有松日本遺産推進協議会



有松まちづくりの会日本遺産実行委員会(仮称)

委員長(プロジェクトリーダー)	竹田 嘉兵衛	最高顧問	須田 寛
日本遺産ストーリー作家	淡河 俊之	顧問	苅谷 勇雅
副委員長	藤枝 静次	顧問	服部 豊
事務局			

※協力団体を含めた会議を定期的に行い、事業を実施



有松の地元民間の協力団体11団体

(ワーキンググループに相当、各団体のトップをグループリーダーとする)

- ・有松絞商工協同組合
- ・有松学区区政協力委員会
- ・有松天満社文嶺講
- ・愛知県絞工業組合
- ・有松法人会
- ・有松消防団
- ・有松桶狭間観光振興協議会
- ・有松商店会
- ・NPO法人コンソーシアム有松
- ・有松商工会
- ・有松あないびとの会

(5) 地域活性化計画における目標と期待される効果

定量的評価：別紙①のとおり

期待される効果：

- ・ 絞り、山車等の伝統文化、歴史的景観の未来への継承
- ・ 国内外の観光客へのおもてなしの強化
- ・ 地域主体のまちづくり活動の持続的発展
- ・ 有松の知名度向上

(6) 日本遺産魅力発信推進事業

別紙②のとおり

事業費：	平成31年度：	23,000千円	平成32年度：	37,000千円	平成33年度：	28,000千円
------	---------	----------	---------	----------	---------	----------

(7) その他事業

別紙③のとおり

## (5) 地域活性化計画における目標と期待される効果

設定目標Ⅰ:	日本遺産を活用した集客・活性化
計画評価指標:	観光客入込み数
具体的な指標:	有松・鳴海絞会館の入場者数
関連事業:	別紙② 事業①「有松の今後のまちづくりのための調査研究」 事業③「日本遺産ホームページ、動画の作成(多言語化、モバイル対応)」 事業⑤「日本遺産ガイダンス施設の新設、既存施設の改修」 事業⑥「案内表示等の設置」 別紙③ 事業③「有松地区の観光魅力向上事業」 事業④「有松商店会歳末セール、秋季大祭すもう大会」 事業⑥「有松・鳴海絞会館の運営」 事業⑦「ガイドボランティアによるガイドツアーの実施」 事業⑧「観光案内所の運営」 事業⑨「有松山車会館の運営」 事業⑩「有松祭りまつり」 事業⑪「晩秋の有松を楽しむ会」 など
目標値:	29 年度 176,495 人 ⇒ 平成 36 年度 204,000 人
設定根拠:	有松・鳴海絞会館入込客数(観光推進室集計)の近年の実績は㉔168,531人㉕177,381人㉖177,335人㉗169,389人㉘176,495人と推移しており、今年度の入場者数は過去5年間平均から173,826人と想定する。日本遺産認定後の各種PR事業、集客イベント事業の実施による知名度向上により有松への来街者増大が見込まれており、連動して有松・鳴海絞会館の入場者も増加するものと考えられる。そこで今後、各種事業を継続して行う事により、平成31年度以降、毎年対前年比で平均5千人の入場者数増加を見込み、平成36年度には203,826人=204,000人入場者数を目指す。
設定目標Ⅱ:	日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化
計画評価指標:	地域の文化に誇りを感じる住民の割合
具体的な指標:	住民意向調査(町並み保存地区における3つの地域資源(絞り産業、町並み、山車まつり)の「地域の誇り」評価の「強く感じる」「やや感じる」の割合)
関連事業:	別紙② 事業②「日本遺産記念各種PR行事の実施」 別紙③ 事業①「名古屋市伝統的建造物群保存地区保存事業」 事業②「名古屋市町並み保存事業(有松地区)」 事業⑤「有松天満社の元旦祭、左義長、春季大祭、秋季大祭」
目標値:	平成 28 年度 73.6 % ⇒ 平成 36 年度 80.0 %
設定根拠:	平成28年3月に実施された「有松学区のふるさとづくり住民意向調査報告書」において、有松町並み保存地区における、地域の誇りを「強く感じる」「やや感じる」の人の割合は、○歴史的町並み 73.9% ○伝統的絞り産業 68.1% ○山車まつり 78.9%となっており、単純平均すると73.6%となる。もともとかなり高い数値であり、地域への誇りが高い地区ではあるが、日本遺産認定を契機として、様々な地域学習を住民向けに実施することで、住民にさらに地域文化への誇りを持ってもらう事を目指し、8割の目標値を設定した。
設定目標Ⅲ:	日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立
計画評価指標:	日本遺産への協力者数
具体的な指標:	愛知県絞工業組合の絞りの技法の養成講座の累計受講者数
関連事業:	別紙② 事業④「有松絞りの後継者育成事業」 別紙③ 事業⑫「国際絞り会議」
目標値:	平成 30 年度 78 名 ⇒ 平成 36 年度 168 名
設定根拠:	日本遺産ストーリーの要となる伝統的工芸品の「絞り」も、他の伝統産業同様に後継者不足の問題を抱えている。絞りの組合である愛知県絞工業組合においては、近年絞り技術の後継者育成事業を実施しており、平成30年10月段階で78名が受講し、5年以上の経験を積み絞り職人として従事している者も29名輩出しており、一定の成果を上げている。しかし、現在、伝統工芸士の高齢化も進んでおり、絞り産業が今後も持続可能な体制を維持していくには、さらなる後継者育成を進めなければならない。そこで、日本遺産認定を機に、毎年15名づつ受講者を受け入れ、様々なカリキュラムを実施することで、後継者育成を図る。78名+(15名×6年)=168名の受講者を受け入れる事を目標とする。

※黄色で着色したセルの内容は変更しないでください。

※目標Ⅰ～Ⅳを複数設定する場合は、設定目標～設定根拠までをコピーして欄を増やしてください。

## (6) 日本遺産魅力発信推進事業

事業①:	有松の今後のまちづくりのための調査研究		
事業区分:	調査研究	事業期間:	平成 31 年度 ~ 平成 33 年度
事業費:	平成31年度: 6,000千円	平成32年度: 6,000千円	平成33年度: 6,000千円
事業概要:	有松の今後のまちづくりの参考とするため、住民調査、マーケティング調査、各種史料の収集調査、空き家活用の方策、インバウンド観光の研究等を行い、その結果を有松のまちづくり活動に活用する。大学等の各種団体機関とも共同して、有松のまちづくりのあり方について研究調査を実施し、有松の魅力を増進する。		
具体的な指標:	有松・鳴海絞会館の入場者数		
目標値:	平成 29 年度 176,495 人 ⇒ 平成 36 年度 204,000 人		
事業②:	日本遺産記念各種PR行事の実施		
事業区分:	普及啓発	事業期間:	平成 31 年度 ~ 平成 32 年度
事業費:	平成31年度: 8,000千円	平成32年度: 5,000千円	平成33年度: 0千円
事業概要:	(1年目) 日本遺産記念シンポジウム開催、PR用アイテムの作成 (2年目) 日本遺産PRイベント開催、PR用アイテムの作成		
具体的な指標:	住民意向調査(町並み保存地区における3つの地域資源(絞り産業、町並み、山車まつり)の「地域の誇り」評価の「強く感じる」「やや感じる」の割合)		
目標値:	平成 28 年度 平均73.6% ⇒ 平成 36 年度 平均80.0%		
事業③:	日本遺産ホームページ、動画の作成(多言語化、モバイル対応)		
事業区分:	情報発信	事業期間:	平成 32 年度 ~ 平成 33 年度
事業費:	平成31年度: 0千円	平成32年度: 6,000千円	平成33年度: 4,000千円
事業概要:	(2年目) 多言語、モバイル対応の日本遺産のホームページを作成 (3年目) 有松の特色をPRする動画を作成。		
具体的な指標:	日本遺産のホームページ閲覧数		
目標値:	平成 31 年度 0 アクセス ⇒ 平成 33 年度 5万 アクセス		
事業④:	有松絞りの後継者育成事業		
事業区分:	人材育成	事業期間:	平成 31 年度 ~ 平成 33 年度
事業費:	平成31年度: 5,000千円	平成32年度: 5,000千円	平成33年度: 5,000千円
事業概要:	市民、子どもを対象として、絞りをテーマにした地域学習を実施し、絞りに親しんでもらう。絞りを学ぶ人の支援体制を整え、発表の場などを提供し、後継者育成を図る。		
具体的な指標:	愛知県絞工業組合の絞りの技法の養成講座の累計受講者数		
目標値:	平成 30 年度 78 名 ⇒ 平成 36 年度 168 名		



事業⑤：	日本遺産ガイダンス施設の新設、既存施設の改装		
事業区分：	公開活用のための整備	事業期間：	平成 31 年度 ~ 平成 33 年度
事業費：	平成31年度： 4,000千円	平成32年度： 15,000千円	平成33年度： 10,000千円
事業概要：	(1年目) 施設の展示改装、景観向上のための環境整備、ガイダンス施設整備方針検討 (2年目) ガイダンス施設整備 (新設・既存) (3年目) 駐車場、トイレ等整備		
具体的な指標：	有松・鳴海絞会館の入場者数		
目標値：	平成 29 年度 176,495 人 ⇒ 平成 36 年度 204,000 人		
事業⑥：	案内表示等の設置		
事業区分：	公開活用のための整備	事業期間：	平成 33 年度 ~ 平成 33 年度
事業費：	平成31年度： 0千円	平成32年度： 0千円	平成33年度： 3,000千円
事業概要：	有松地区内でどのような案内表示が望ましいか、仕様、設置場所を検討した上で、有松の町並みに調和した案内表示を設置		
具体的な指標：	有松・鳴海絞会館の入場者数		
目標値：	平成 29 年度 176,495 人 ⇒ 平成 36 年度 204,000 人		

## (7) その他事業

事業①:	名古屋市伝統的建造物群保存地区保存事業		
実施主体:	名古屋市 (文化庁補助事業)	事業期間:	平成 31 年度 ~ 平成 36 年度
事業概要:	名古屋市有松伝統的建造物群保存地区内の建造物を修理・修景する者に補助を行う。		
事業②:	名古屋市町並み保存事業 (有松地区)		
実施主体:	名古屋市	事業期間:	平成 31 年度 ~ 平成 36 年度
事業概要:	伝建地区を除く町並み保存地区の建造物の外観を修理・修景する者等に補助を行う。		
事業③:	有松地区の観光魅力向上事業		
実施主体:	名古屋市	事業期間:	平成 31 年度 ~ 平成 36 年度
事業概要:	地域団体の活動支援や民間事業者との連携による観光魅力の向上を通じ、観光地化を図る。		
事業④:	有松商店会歳末セール、秋季大祭すもう大会		
実施主体:	有松商店会	事業期間:	平成 31 年度 ~ 平成 36 年度
事業概要:	歳末セールや秋季大祭すもう大会を開催。		
事業⑤:	有松天満社の元旦祭、左義長、春季大祭、秋季大祭 (山車まつり)		
実施主体:	有松天満社文嶺講	事業期間:	平成 31 年度 ~ 平成 36 年度
事業概要:	有松の氏神さまである有松天満社の様々な年中行事を実施運営。		
事業⑥:	有松・鳴海絞会館の運営		
実施主体:	有松絞商工協同組合	事業期間:	平成 31 年度 ~ 平成 36 年度
事業概要:	貴重な絞りの資料展示や有松絞りの歴史・文化の紹介を行う会館の運営。絞り製品の販売も行う。		
事業⑦:	ガイドボランティアによるガイドツアーの実施		
実施主体:	有松あないびとの会	事業期間:	平成 31 年度 ~ 平成 36 年度
事業概要:	予約制町並み案内、絞りまつり等における無料町並みツアーの実施。		
事業⑧:	観光案内所の運営		
実施主体:	NPO法人コンソーシアム有松	事業期間:	平成 31 年度 ~ 平成 36 年度
事業概要:	観光案内所での案内業務、各種催しの実施。		
事業⑨:	有松山車会館の運営		
実施主体:	有松山車会館運営協議会	事業期間:	平成 31 年度 ~ 平成 36 年度
事業概要:	名古屋市の文化財である山車3輛を毎年入替で展示する。		
事業⑩:	有松絞りまつり		
実施主体:	有松絞りまつり実行委員会	事業期間:	平成 31 年度 ~ 平成 36 年度
事業概要:	有松の東海道一帯を会場として、毎年6月の第1土・日曜日に開催する有松最大のまつり。		
事業⑪:	晩秋の有松を楽しむ会		
実施主体:	晩秋の有松を楽しむ会実行委員会	事業期間:	平成 31 年度 ~ 平成 36 年度
事業概要:	有松の東海道一帯を会場として、毎年11月上旬の土・日曜日に開催するイベント。		
事業⑫:	国際絞り会議		
実施主体:	ワールド絞りネットワーク	事業期間:	平成 31 年度 ~ 平成 36 年度
事業概要:	世界を代表する絞りの産地である有松絞りの情報を世界に向けて発信。世界各国の絞り関係者が意見交換を行う国際会議。		